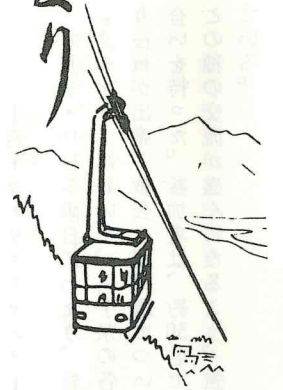


仙台司教区 教区事務所だより



(第 23 号)
昭和54年8月1日

小林有方司教

※ 司教祝聖二十五周年を祝う!

去る6月24日(日)に、仙台教区司教座聖堂保護の聖人祭日の盛儀が行われた。その前、前司教長・小林有方司教が司教に祝聖された二十五周年の記念祝賀が行われた。5月3日(日)がその当日に当たった。

祝賀は午前11時から、小林、佐藤両司教をはじめ、修道会、宣教会、教区司祭団の司祭による共同司式ミサが捧げられた。教区内の修道会や、各県からの代表の信徒・在仙の信徒が集まり、神に、この佳き日が与えられたことを感謝した。ミサの中で、ヨハネ・パウロ二世教皇から、小林司教に宛てた祝賀の手紙が佐藤司教によって紹介され、朗読後、手渡された。交わりの儀では、堀米きょうだい三人が初聖体を受けた。

また小林司教から、司教祝聖25周年、使徒職行使を行えた神の恵みと教区民の協力への感謝のことがあった。

ミサ後、信徒館で参加者一同のパーティーがあり、教区民からの記念品と花束が贈られた。信徒を代表し、西仙台教会の猪岡修一氏のお祝いの辞があった。祝宴の馳走は、元寺小路教会婦人会によって作られ、またたく間に平らげ、楽しいひとときを過ごした。その後、教区主催の宴の別席も設けられ、各県からの代表者が参席した。

翌25日は、教区司祭団の月例会があり、感謝のベネディクションと祝いの昼餐会が催され、民謡、歌曲等の清興もあり、最後に星かげのワルツでしめくくった。

藤の園 改築落成式

一関市の養護施設藤の園(Sr梅村サタ子園長)の新園舎改築落成式は、6月23日午後一時半から仙台教区長・佐藤千敬司教の司式で行われ、多くの来賓も参加して盛大に行われた。

新園舎は、老朽化して安全の面からも問題となっていた木造の古い建物を取りこわし、昨年6月から仁田建設によって工事が進められていた。総工費は、解体工事や、内部設備工事を含め二億一千八百万円余で、今年3月外部の工事を残して完成。3月21日仮落成式を行い、子供達を入居させた。

このたび、すべてが落成の運びとなったので、落成式を行い、この喜びを共にしたものである。

司教様の日程

(7月17日現在)

- 8月15日 塩釜教会堅信
- 17日 聖母被昇天会創立125周年記念
- 26日 大籠切支丹祭
- 9月2日 男女修道会合同役員会
- 15日 福島カトリックの集い
- 18~20日 仙台、新潟、浦和三教区合同司祭大会
- 30日 平教会堅信

「福島県カトリックのつどい」



十周年をむかえる！

福島県全信徒の信仰を深めることを目的に始まった「カトリックのつどい」が、今年で十周年を迎える。

毎年福島県の四地区で輪番制で行われてきたこの「つどい」も十周年記念を迎える今年には、郡山で盛大に行われる。県単位の信徒の集いが十年も続けられているということは、実行委員会の地道な組織作りと努力によるもので高く評価されるであろう。なお、今年度のテーマは、「祈りと生活」で、三部よりなり、次のような日程である。

つどいの日程

第一部 錬成会

テーマ「信徒の錬成とつどい十年の反省」

日時 7月21日(出)〜22日(日)

場所 郡山磐梯熱海

指導 佐藤千敬司教

第二部

映画鑑賞「マザーテレサとその世界」
県北、県南、会津、浜通りの福島四地区でこの映画を鑑賞し、信仰の現実的な表明について考える。

第三部

講演と話し合
「子供とつどい」
国際児童年を記念して
9月15日(敬老の日)

神父様方秋の勉強会

第八回三教区合同司祭研修大会

浦和、新潟、仙台の三教区では、二年毎に合同司祭大会を催しているが、今年は9月18日から20日まで那須高原ビューホテルで、研修に重点をおいた大会が開かれる。

テーマは、「信仰の生涯学習」。具体的には、各教区から一名の司祭が次の題に沿って発題する。

一、「キリスト教信仰における生涯学習の意義と必要性」 犬飼政一師(浦和教区)

二、教会活動における信仰学習の可能性 高橋昌師(仙台教区)

三、信仰実践と信仰学習 新瀨教区担当

できるだけ多くの司祭方がこの研修会に参加され、仙台教区の司祭、修道者、信徒が一体となって信仰を生涯深めていくために、具体的に学ぶ場を作っていきたいものである。

岩手県

教会交流会

―岩手カトリックセンターで―



6月9・10日の両日にわたり、岩手カトリックセンターにおいて、岩手県の各小教区より役員が出席、教会の諸問題について、話し合いを持った。参加者は、約30名で、今後この種の交流が盛んになるよう、強く望まれている。

友情の秘跡・ゆるしの秘跡

昭和54年度仙台教区修女連
研修会開催

梅雨晴れの日曜日6月24日に、昭和54年度の仙台教区修道女連盟(会長 Sr モニック・ブッシュエ)研修会が行われた。

今年、6月から新しい「ゆるしの秘跡」が施行されたこともあり、サレジオ会の中垣純師の指導で、「友情の秘跡、ゆるしの秘跡について」というテーマのもとに研修を深めた。まず、このゆるしの秘跡の歴史、神学、靈性、そして司牧的面から話され、次に新しいゆるしの秘跡の式的紹介が、その根底にある聖書の教えをもとに話された。新しいゆるしの秘跡のポイントは、「聖書に立ち返ること」、「神との和解」という点にある。そして、特に共同体的回心の必要性和修道会という共同体の回心が現代の修道者に特に求められていることを強調された。

なお、参考となる資料として次の書物をあげられた。

- 聖書思想辞典 三省堂 悔い改め、和解、罪の項参照
- 告解・ゆるしの秘跡 A・ニコラス著 女子パウロ会

- カトリック儀式書 「ゆるしの秘跡」
- ゆるしの秘跡 Sr 藤田文字子・中央出版社

日本カトリック教会

声明文発表

「国際児童年にあたって」

国際児童年に入った一九七九年も中盤戦に入り、8月1日から31日までの一か月間は、「集中記念行事の月」として、全国各地で記念行事がくり広げられる。

日本カトリック司教協議会では、浜尾文郎司教の責任で構想を進めてきた声明文「国際児童年にあたって」を、このたび発表した。カトリック者として、この国際児童年をどのように考え、行動すべきか、この声明文から多くの事を学ぶことができる。両親は勿論、子供の教育にたずさわっている人々はぜひ一読をおすすめする。この声明文の読書会や話し合いをグループで持つことにより、一層認識を深めることもできよう。主な内容は次の通りで、カトリック新聞7月8日号を皮切りに三回にわたり掲載される予定である。

声明文テーマ「子供の使命を大切に」

- ① 子供はだれでも生きる権利がある。
- ② 子供は家庭の中で育てられる権利を持つ。
- ③ 子供は子供固有の能力によって生きる権利がある。
- ④ 子供は大人より、より高い理想が与えられ、それに向かって自ら成長する道が与えられるべきである。
- ⑤ マスコミは、子供に正しい判断、価値観を与える義務がある。

⑥ 子供は、神の国のため、広い心をもって神の呼びかけにこたえる使命をもっている。

マザーテレサの映画会

各地で

青森では、街頭募金も！



4月の仙台ドミニコ学院を皮切りに、映画「マザーテレサとその世界」は各地で上映され、人々に深い感動を与えた。

6月6日には岩手カトリックセンター主催で県民会館で上映された。入場者は昼、夜の二回で合計千二百人あり、監督の千葉茂樹氏の講演も興味深く拝聴した。

6月22日には、青森県キリスト教連協議会主催で青森市民会館で上映、入場者は八百人に及んだ。次の日、23日には、青森市内のキリスト教が一致して、インドの救ライと、マザーテレサの活動のため街頭募金を行い、インドの貧しさに苦しんでいる人々を助けるよう、街行く人々に呼びかけた。

第三回

マリッジ・エンカウンター

ー盛岡でー

夫婦が新たな出会いを通して一層理解し、愛しあうことを目的に行われるマリッジエン

カウンタが、7月6・7・8日の三日間、岩手カトリックセンターで行われた。今回は十一組の夫婦が参加。岩手県としては、今年で三回目になる。

指導は茨城県の二チームと群馬県の一チームの夫婦、そして小林博神父（茨城・下館教会）であった。なお、仙台でも11月に行われる予定である。

＋ アシジのフランシスコ

高瀬理左衛門氏 死去

ー高瀬和夫師の尊父ー

去る7月8日午前5時30分、仙台教区高瀬和夫師の御尊父理左衛門氏は老衰のため、タイ国・バンコックにて帰天（89歳）。5男2女のよき父として養育につとめ、3男和夫師を司祭に、次女礼子さんを厳律シトー会天使の聖母トラピスチヌス修道院へ修道女として神に奉獻した。昭和36年タイ国に渡り、タイトヨタに勤務。余生を、5男則之氏のもとで送っていた。

葬儀ミサはタタヤの教会で7月9日しめやかに献げられた。喪主は妻玉乃さん。

遺骨は8月初旬、仙台鶴ヶ谷墓地に埋葬の予定である。



一関教会の教会学校は、昭和34年4月に、それまでの日曜学校なるものを発展的開教して発足したのが、始まりです。

開校式には、信者未信者合わせて一四七名の小学生とその父兄約七〇名が出席して盛大に行われたとありますから、相当なものだったと思います。

これは、当時、名古屋の八熊教会で、現在の東京教区の金井久神父様がカテキスタをしていた時に始めた、新しい方式の教会学校を参考にして、それに若干の手を加えて始めたものでした。退職校長を校長に迎え、会計係教理教師4名、他に珠算、図工、英語、書道の専門教師6名、生徒数は、最高時には四〇名を教えたものです。父兄会も組織されるなど、全く学校と同じ形態で運営されていました。

布教誌にもこの方式の教会学校を発表し、大きな反響を呼んだようです。

ところで、現在の状態はいえ、何とか発足当時の形は残しているものの、指導メンバーの不足のため、やむなく縮少し、約八〇名の生徒を、英語、書道、教理の3科目を、5名のメンバーで運営しているような次第です。

一関の教会学校は、信者、未信者を問わず全部いっしょにして、1、2年、3年、4年、5、6年の4クラスに分けて指導しているので、一般市民から大変好評なようで、もし、一般募集をするなら、申し込みが殺到し、いくらでも大きくできるでしょうが、現在のところは、指導者（特に教えの）がいないうえ、どうしても募集できない状態です。

信者の子供の教理指導については、日曜日に修院のシスターをたのんでいたしておりますので、問題はないうようです。

（一関教会 阿部）

ある日の宗教の授業から

その一、「ほくもキリスト信者になるかな！」



友だち、というテーマで授業をすすめ、「世界のみんな友達」というところで、3年生はマザーテレサのスライドをみんなで見ました。見終わってS君感激したように声を発した。「テレサさんって、えらいなあ。」

ほくもキリスト信者になるかな！」やった！と思った。実はS君は幼児洗礼なのだが、家族がほとんど教会に行っていないので、本人はそのことを知らないのである。このことを聞いたたら両親はどうだろうか！

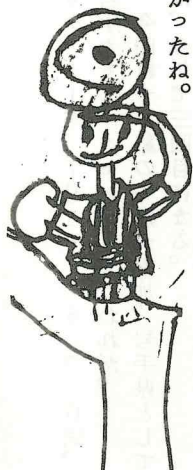
その二、「ザアカイさん、ほくの心の中にきておしゃべりしましょう！」

ザケオの物語を紙芝居で見た2年生は、ザアカイさんに次のような手紙を書いた。

◎ザアカイさん、おげんきですか。わたしはザアカイさんがいい人になった話をきいて、とてもうれしくなりました。いつまでもそのころをわすれないでね！

◎ザアカイさん、さいしょはお友だちがいなかったんですね！もしいきていればうちにあそびに来てね。ほんとうは、わたしはうさぎをかかっていました。けれどもうさがにげてしまいました。こんどさがしてもってきてください。そしてわたしのところの中に、イエスさまをよんでくださいなね。

◎ザアカイさん、はじめはいじわるだったけど、あとからいい人になってもいい気持ちだったでしょう。友だちができてうれしいでしょ。イエスさまにあえて、ほんとによかったね。



上
紙
テレフォン
サービス



「リリン、リリン」
 「はい、教会です」
 「神父様ですか。私、信者ですが、ちょっとお尋ねしてもよろしいですか」
 「さあ、どうぞ どうぞ」
 「私、家が教会から遠くて三十分もバスに乗るものですから、日曜日のミサに、毎度遅刻しがちなんです」
 「ほほう、それはお困りですね」
 「ミサには説教がすんでから与ってもよいという人もあるんですが、それでよろしいんですか？」
 「それは、大きな誤りですね。日曜日と守るべき祝日には、ミサの始めから終わりまで、全部を完全に与るように教会は命じているのですよ」
 「でも、ミサの、ある部分はさほど重要でない」と聞いたことがあります」
 「それも誤りですね。ミサには、大切でない必要な部分はありません。ただ中でも特に重要な部分とは言えば『奉献文』です。『みことばの祭儀』も重要な部分です。それからね、ミサの本質的な部分、すなわち、そこに与らなければミサに与ったとは言えない部分があります」

「それは、どの部分ですか？」
 「それは『聖変化』と『司祭の聖体拝領』です。この二つでミサの犠牲は成り立つ、というのが学者の教えるところです。ですから、この部分を欠くと、改めて別のミサに与りなおさなければならぬことになるのです」
 「はあ、それは大変ですね。でも交通渋滞でどうしても遅れることがよくあるんですけど」
 「それはしかたありませんね。神様は不可能をお求めになりません。その他、病氣、立場上の務め、他人に親切にするなど、相応の理由があれば、遅刻ばかりか、ミサを休んでもよいこととなります」
 「テレビドラマを見てからなどは遅刻の理由にはなりませんね」
 「まあ、普通にはなりません」
 「私たち、5分か7分早く家を出ればよいのですがね」
 「実は、長い間には、それがなかなか難しい。最後にひとこと。聖堂まで行く時間は、とてもよいミサの準備の時間です。ぜひ大切にしてください」
 「よくわかりました。神父様、どうもありがとうございました。」

(解答 児山六七男師)

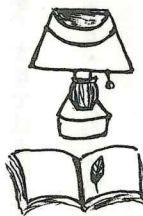


「イエスの歩いた道」 四八〇〇円
 「モーセの歩いた道」 四八〇〇円
 「パウロの歩いた道」 五八〇〇円

学習研究社発行 B4判

夏休み、写真集で聖地巡礼をしてみませんか。学研から発行されているこの三部作は、それぞれ当時の生活の様子がよく描かれており、何よりも、その美しい写真が、いつの間にか、読む者の心を、旧約時代へ、イエスの時代へと引き込んでくれる。そして、静かに折りにふけるよいテーマをも与えてくれるであろう。

良書案内



「ゆるしの秘跡」 中央出版社発行

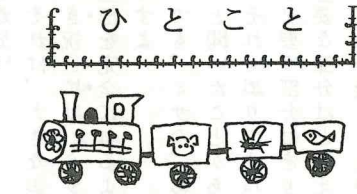
小中学生の親、指導者のために
 藤田文字著 B6判 八〇〇円

子供の信仰教育の立場から、新しい儀式書「ゆるしの秘跡」にそって、その指導のしかたを助言するもので子供達をよりよく、イエスの友情の秘跡に導くために時宜にかなった指導書といえよう。

「しばらく休みなさい。」

(マルコ六章三十一節)

教会のある集いで、



けんけんがくがくの討論も終わって休憩のひととき、日本人たちは、みな一様につかれ切った浮かぬ顔をしてだまりこんでいたとき、ドイツ人のP神父とスペイン人のD神父が、あたりかまわぬ大声で議論をはじめた。

P神父は、「あなたの教会には、二つの塔があるが、一

おしらせ

◎第三回神学講座のご案内

仙塩地区合同会議では、左記のように信徒のための神学講座を計画している。霊的講座を聞くチャンスが少ない地域的なハンディをなくするためにも、ぜひ誘い合って参加したいものである。

メインテーマ||日本人の霊性とキリスト教
講師 奥村一郎師(カルメル会士)
日時 9月1日出十八時~二十時
「日本人の祈り」

9月2日(日)十八時~二十時
「キリストに捕われた仏教徒

つだけにした方がよかったと思ひよ」と言つた。するとD神父が、

「二つにしたのは、雷を迷わすためなんでもところであなたにきくが、あなたの教会には入口が二つあるが一つでもよかったと思ひよがネ」と切りかえずと、
「ソレワ、ドロボーを迷わせるためなんだよ」と答えた。

この珍問答を聞くともなしに聞いていた日本人たちは、ドッと笑い、先程の討論での緊張がほぐれ、つかれも吹っ飛んでしまったかのようなふんい気になつた。

一般に日本人は、欧米人にくらべて、ユーモアや健全な冗談を言うのが下手な民族のようにいわれているが、これに関連してカン

◎教区事務所より

事務所の夏休みは次のとおりです。
54年8月1日~16日(休)まで
なお教区事務所だよりの編集も8月は休ませていただきますので、9月号は休刊です。
涼しくなつた10月号で、またお目にかかりましょう。

投稿規定

- 投稿締切日 毎月十日
- 教会学校めぐり、原稿用紙2枚
- ひろば こどもの作文・詩など



ドウ神父は、

「落語や狂言をみてもわかるように、日本人には、十分その素質がある。ただ、その素質を十分に生かしていない。」

つまり宝の持ち腐れ、使ひ下手だと批判した。最近、とかくエゴの主張が強くなり、そのため、対人関係がギンギンした冷たいものになつてきている。このギンギンを少しでも和らげ、暖かなものとするため、カンドウ神父が指摘した天与の素質を生かすため、たがいに切磋琢磨して、大いにユーモアや、健全な冗談を活用することが、大切ではないだろうか。

(一関教会報6・7月号より)

- カット・マンガ等。一コマ5平方センチ
- 読者の声(意見、希望、随想等)
- おしらせ、案内
- その他小教区のニュースなんでも!

● テレフォンサービス||神父様への質問
教会について、教理について聞きたいことがあるが、こんなことを聞いたら笑われはしまいか、そんな疑問があるとき、このテレフォンサービスの御利用下さい。神父様方が親切に答えて下さいます。

仙台司教区事務所だより第23号
昭和五十四年八月一日発行
発行所 仙台司教区事務所
980 仙台市本町一丁目2番12号
TEL 0222 22 7371